

<“菜園家族”構想について>

国破れて山河あり どっこい菜園家族は生きていく

投機マネーに翻弄される世界経済。原油・穀物価格の高騰と世界的規模での食料危機。

国内農業を切り捨て、農業・農村を荒廃させ、食料自給率39%に陥った日本。

輸入してまで食べ残すこの不思議な国に、はたして未来はあるのでしょうか。

いのち削り、心病む、終わりなき市場競争

失業者、日雇いや派遣など不安定労働、「ワーキングプア」の増大。競争と成果主義にかき立てられた過重労働、蔓延する心身の病。医療・介護・年金など、社会保障制度の破綻。家族、地域の崩壊、子どもの育つ場所の深刻化。明日を見出すことができずに、使い捨てにされる若者たち…。

貶められても、貶められても、それでも…

ほしいまま振る舞う「政治」を、これほどまでに長きにわたって許してきた時代も珍しいのではないのでしょうか。それは、氾濫する雑多な情報に振り回され、ますます肥大化する欲望に翻弄された現代社会の病弊の為せる業なのかもしれません。

今こそパラダイムの転換を

市場競争至上主義のアメリカ型「拡大経済」の弊害と行き詰まりが浮き彫りになった今、18世紀イギリス産業革命以来、二百数十年間、人びとが拘泥してきたものの見方、考え方を支配する認識の枠組み、つまり、既成のパラダイムを根底から変えなければ、どうにもならないところにまで来ています。

大地から引き離され、根なし草となった「現代賃金労働者(サラリーマン)」という人間の存在形態は、果たして永遠不変のものなのでしょうか。

今、あらためて、人類史を自然界の生成・進化の中に位置づけて捉え直し、新たなパラダイムのもとに、未来社会を展望することが求められています。(「菜園家族21」本書の主旨紹介から)

<ビデオ内容>

『ハローニッポン 伝えたい！ 田舎で暮らす素晴らしさ

～ジェフリー・アイリッシュさん(アメリカ)～鹿児島県川辺町』(NHK総合テレビ2001年5月25日放送)

アメリカの青年が、鹿児島の農村に惹かれて住み込み、地域のおばあさんに野菜の作り方などを教わりながら、日本の田舎暮らしを実体験しつつ、地域に溶け込んでいく姿を映し出しています。

20分という短い番組ですが、外国人の目を通して、私たちの暮らしや地域のあり方を今、あらためて見つめ直すきっかけを与えてくれる内容になっています。

各団体の取り組み

有限会社レチュール・ユゲ(弓削牧場)

風に揺れる可憐な野の草やハーブ、小鳥のさえずり、そして時折聞こえる子牛の鳴き声…

神戸市の中心部からわずか20分程で、豊かな自然に囲まれた弓削牧場があります。

酪農家として牛を育て、乳を搾り、その牛乳をチーズに加工し、消費者の皆様へ直接召し上がって頂くことを、

最高の喜びと感じ、誇りに思っています。そして、乳製品を通してたくさんの方々との「出会い」を大切にしていきたいと考えています。

権座・水郷を守り育てる会

近江八幡市にある西の湖には、先人から大切に引継がれてきた農耕文化と豊かな水辺生態系が調和した、湖国の原風景というべき文化的景観があり、「国の重要文化的景観」全国第1号に選定され、「ラムサール条約湿地」に登録、「にほんの里100選」にも選ばれたものの、存在する貴重な文化的景観や生態系を守り育てるための具体的な方策がないのが実情であったが、この地域の象徴的存在である「権座(=唯一現存する、舟でしか行けない湖上の田んぼ)」での様々な取り組みを通じて、この美しい癒しの空間を次世代に引継ぐため、地元農家、趣旨に賛同した酒蔵・NPO・市民などが結集して「権座・水郷を守り育てる会」を平成20年10月に発足しました。

水基町夢の郷委員会

ふるさとづくりのテーマ「資源は“人・自然”地球にやさしい豊かな夢の郷づくり」

1.干拓風土を活かした農の魅力の再発信 2.自然の力を活かした“農による脱温暖化の発信！”

昭和21年から入植した水基干拓地は、60年余りが経過し、入植当時、胸まで泥に沈みながら田植えを続けた先人たちの“開拓魂”や伊勢湾台風など過去幾度ももの水害などをみんなで助け合い乗り越えてきたこの心を大切に、近年の厳しい農業情勢と、

干拓地特有である内水排除経費が加わり、地域の活力が減退しつつある中で、平成17年に地域活性化を目的に住民有志、水基干拓土地改良区などが「水基町夢の郷委員会」を組織しました。

まちづくりスペース「水と風と土・そして人と」

日々暮らす中で大切なものは何か…。健康であることも、経済的に豊かであることも、そして人との繋がりが豊かであることなど…。

大きくも小さくも色々ある中で、第一に大自然の中で生かされているのだと気づいているのでしょうか。まちづくりスペース「水と風と土・そして人と」は、人が生きて生活する中で環境、歴史、文化、そしてそれら何れにも関わる人と人を繋ぐことを目的として活動しています。

NPO法人 都市型農業を考える会

私達は食料自給率、食の安心安全はもちろんのこと、環境保全や景観保護を農家サイドから見つめなおし、「農業に対する理解の促進」、「食の重要性についての啓発」、「農による環境保全」、「農業文化の継承」、「都市型農業の可能性の探求」、「農業の資源循環・利活用施設の構築及び運用」に関する事業を行い、未来につながる持続可能な自立した次世代型農業の推進に寄与することを目的としています。